

Book Review



Dental Start Book これで解決！ 前歯部補綴

鈴木 尚 監修／森本達也 著



Reviewer

澤瀬 隆 Takashi Sawase

(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科)

A4 判変, 144 頁
定価 6,930 円
(本体 6,600 円+税 5%)
医歯薬出版刊



前歯部補綴には非常に多くのことが求められる。単に咀嚼機能の回復に留まらず、アンテリアガイダンスを司ることから、歯牙のみならず口腔全体の保全に重要な役割を果たし、また言わずもがな発音機能の要でもある。

そしてさらに、エスティックゾーンといわれる上顎6前歯の補綴においては、審美性の回復・獲得もまた欠くことのできない要件である。こと「審美性」については、患者に主体がありその意向にも大きく左右されるため、良否の客観的な指標を求めることが困難となる。

また、通常臼歯部補綴において問題の露見することの少ない、わずか1mmの歯肉退縮であっても、前歯部においては非対称性を招来し、いかにほかの機能が良好に回復されようとも、補綴の失敗と判断されてしまう。そしてさらにこれら機能と審美性の回復は、一時的なものではなく、長期的に

良好な予後が求められる。

それゆえに前歯部補綴は、いわゆる「歯科補綴学」だけでなく、修復を構築するための材料学や修復物の適正と限界を把握する「理工学」と、支持骨組織や歯肉軟組織との適合と調和の永続性を担保する「生物学」に加え、隣在歯の状態を詳細にとらえ、患者の要求をくみ取り、テクニシャンとのディスカッションを実践する「アート」の素養が必要不可欠である。したがって、それを担うわれわれ歯科医師は、各診療ステップを綿密に積み重ねなければならない。

これらを解決すべく、数多の教科書や解説書が提供されるなかで、本書はありがちな机上の解説や偏ったエキスパートオピニオンではなく、エビデンスをベースに、日常でわれわれが遭遇する臨床例から、豊富な写真と適切な図を交えてわかりやすく解説されている。特に支台歯形成に使用するバーの

選択や切削手順、プロビジョナルレストレーションの合わせ方など、著者のこれまでの豊富な経験に裏打ちされた「かんどころ」や仔細にわたる「ノウハウ」満載である。また、チェアサイドでわれわれ歯科医師の行った労苦を、歯科技工士に託すべき印象採得の章では、実験による客観的な評価も交えており、著者の探求心に感嘆させられる。

本書は「若き歯科医師に/Dental Start Book」のシリーズに則するものであるが、これから臨床に船出する先生方には、前歯部補綴の臨床スキルだけでなく、誌面からにじみ出る著者のこだわりを感じ取ってほしいと思う。そして若い歯科医師だけでなく、経験を重ねた歯科医師にとっても、自らの日常臨床を振り返るために、いい刺激を与えてくれる本であると思う。ぜひ毎日の臨床のなかで、すぐ手の届くところにおいてほしい一冊である。